

# 東北関東大震災に思う

3月11日に発生した東北関東大震災(東日本大震災)の被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。我々が今迄に体験したことのない大きな揺れと、考えたこともなかった高さの大津波に襲われたことに衷心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

この度の地震と津波によりもたらされた大災害に世界の国々が心をいたため、救援隊や生活物資、義援金を送って頂いていると報道されています。世界中の国々、とりわけ原発を持つ国は、この地球上のどこで起こるか分からない地震と津波という自然災害を決して他国だけの事だとは思えないでしょう。また、日本国民としてはこの大災害に際して生活物資や義援金を送って頂いた国々に深い感謝の気持ちを忘れることはできません。

我が国では戦後の電力不足を補うために原子力発電所が各地に作られ、周辺住民や国民に対して大きな地震にも耐えられる耐震構造であるため、「安全」と説明されていました。しかし、今回の地震と津波は、地震観測史上最大規模とされ、まさに想像を絶する大惨事となりました。その為、福島第一原子力発電所も大きな被害を受け、原子炉設備にも異常事態が起きて白煙、黒煙、水漏れ等が発生し、高濃度放射能が発散しました。

1号機から6号機まですべての原子炉で問題が発生する中、自衛隊や消防、特にハイパーレスキュー隊の方々はまさに危険な事故現場の最前線で火災に立ち向かい、放射能測定機を胸に、日頃の最悪の事態を想定した厳しい訓練の成果を発揮し、命懸けの作業に取り組んでいます。その姿にただただ感謝するばかりです。私はそこに、日本人の魂と言うべきものを見る思いを深くしています。テレビを通して命懸けの活動を見ている多くの国民も同じ思いではないかと思えます。

この原発事故には日本の人だけでなく世界の人々が注目しています。原発事故が世界中の国々に報道されているのに伴い、原発を持つ国々は、日本がどのような方法で放射能を少しでも飛散させないよう復旧作業を出来るかということに注目しています。そうした中で、東京電力協力工場の職員3名が被曝してしまったことは残念でなりません。我々国民は、原発内で復旧作業にあたっている職員の方々は被曝を防ぐために万全の準備をした上で作業しているものと思っていました。防護服を着て、足元も完全にテーピングして水が入らないように確認したうえで作業に取り組んでいるのだと考えていました。しかし、被曝した職員の方々は足首までの短い長靴を履いていたために放射能に汚染された水が入ってしまったと報道されています。この事実が世界に向けて報道されたことは残念でなりません。放射能がどの原子炉から出てもおかしくない状態の中で、一刻も早く復旧させたいと命懸けで働く方々の気持ちは尊いものがあります。それだからこそ今後は、原発を持つ世界の国々の模範になるよう作業に最善の注意を払い、二度と被曝者を出さないように祈っています。そして、全ての原子炉が安全に稼動する日が来ることをお祈り申し上げます。

大惨事から十八日経った三月二十九日現在、百三十四カ国、三十九の国際機関から支援の申し出があったと報道されています。国や言語の壁を超え、災害に見舞われた人々に救いの手を差し伸べることの大切さ、有難さをつくづく感じます。子供や家族を守りたいという思いはどんな国の人にも共通の願いです。世界中の人たちの心温まる支援に感謝し、この大災害を機会に世界の人々が仲良く暮らせる平和で安全な地球になることを祈らずにはいられません。

被災地の皆様にとって寒い日々の生活は大変なご苦労だと思いますが、夜はやがて朝になるように少しずつでも希望の夜明けが訪れ、以前の生活と健康が回復することを信じて頑張ってくださいと思います。必ずや新しい道が開けて来ることをお祈り申し上げます。